

福田恒久

明治形勢一班

萬葉閣梓

明治形勢一班

形勢何形勢天下之勢也天下之勢何  
曰謂國之盛衰也我邦明治以還為事  
變之最錯雜者而僅々十有年間大變  
革數百年之舊弊廢封建為郡縣混四  
氏為同一許自由弘張民權敷鐵道架  
電信陸置郵便海泛便船四海兄弟六  
合一家開化進步之速所不有未曾也



明治形勢一斑

形勢何形勢天下之勢也天下之勢何  
曰謂國之盛衰也我邦明治以還爲事  
變之最錯雜者而僅々十有年間大變  
革數百年之舊弊廢封建爲郡縣混四  
氏爲同一許自由弘張民權敷鐵道架  
電信陸置郵便海泛便船四海兄弟六  
合一家開化進步之速所不有未曾也



福田恒久明治以後各社新聞紙中論  
說建言雜報等之苟抄錄有干益世道  
者附以批評名曰形勢一斑以序屬余  
試取而閱之體裁得宜明治以後之事  
情歷々如在目可謂善撮其要者矣余  
故不敢辭爲之序

明治十年三月上澆

中村江洲識

明治形勢一斑卷之上目次

大隈重信北支那戰爭記序

曾我祐準佛國實地演習軌典序

福羽美靜富士之歌

熊本城廢墮之表

榎本武揚望鳥海山詩

増田増太郎詩

一六巖谷修題習志野練兵圖卷文

四十二條正俗論

茨城縣太田氏建白



大鳥圭助詩

皇后宮御苑之養蠶

山縣有明歌

伊藤博文詩

西洋服之標簡

肉食之說

石炭油之說

牛乳之說

教法之捷徑

廢刀之灑觴

鍊醬之說

主上之學課

米國新聞

尚武勅諭

朝紳武辨婦農商之訴

穢多非人廢止

橫濱ジャパニール新聞

徽毒院之告諭

洋行生ヨリ來翰

同氣相求之說



漢字不便之說

盲啞教育之上書

ヘラルト新聞

米國ニ於テ伊藤副使之名譽

博覽會ノ景況并ニ布告書

人身ノ滋養物

廣瀨氏教養ヲ華族ニ募ル議

洋人府下ノ舊習ヲ話ス

女子洋裝之說

洋行生ノ開化ノ急進ヲ欲スル論

雲井龍雄詩

同卷之下目次

西郷隆盛智賢之文

圭陰鳥居斷三航禱詩

泰山土方久元陶貞白圖贊

開化固陋之辨

ヘラルト新聞

利拳弊除之論

消魂驚目之話

神田神社除却之議案



府下貫屬奇談

德川慶喜年内立春之詠歌

參議勝公驢榎本君書

里人左大臣島津公ノ下ヲ詔ス

東久世通禧月瀬村梅花之詠

勝安房詠歌

少教正折田氏建議中之文

舊弊未脱ノ話

年齡ノ陋說

吉田賢輔有名蒙古王マ麻遊綦傳

英人王堂賛兒島高德和歌

米國留學生之一奇話

英佛海底鐵道之話

梅田源治郎妻子之願書

西京ニテ外國人ヲ饗スル書

大久保利通之詩

三條實美之和歌

說教所之寂寥

毛利氏留學中舊貫屬王告諭

佛國奇話二



奔走營々話

英國留學生來翰

兩女於中宮御前詠歌画作

偕樂苑會集之話

募兵ノ詔書兵徵兵告諭

合衆國ホストニ火災之話

時勢ヲ諷スル狂詩

米國留學生之贈書

英國人都鄙繁盛之論

浮薄ノ洋學生ヲ斥ル論

浴場熱湯之話

洋學生ノ杞憂

本邦ノ三大局之噂

洋學生之政體論

倫敦ニテ日本ニ教師ヲ送ルノ論

谷干城守城之詩

明治形勢一班目次終



形勢一斑卷之上

福田恒久輯

北支那戰爭記序

大隈重信

英人某所著北支那戰爭記譯成。余讀之。慨然掩卷  
嘆曰。甚哉清國之禍也。城池不守。宗廟不保。君臣惶  
遽出走。終至為城下之盟。而止。何其慘也。蓋我亞細  
亞洲之於歐米諸州。一則鎖國自足。一則航海往來。  
以拓境土為先務。其風俗人情大不相同。而大抵我  
之視彼不異仇讎。曰夷狄也。禽獸也。窺窬我也。而清



國為最甚。是故道光鴉片之亂。一敗塗地。流血未乾。又有此禍。平時自稱堂堂中華。一旦有事。不免為歐人所蹂躪。願先後二役。其跡雖異。考其所由。未嘗不原于風俗人情之陋且固也。雖然締交訂盟。信義相親。宇內萬國之公道。苟秉國均者。務革其陋。去其固。誘導振作。能得其方。則舊習之弊可得而除矣。向使清國慮出于此。則其或銷禍乱于未萌。而城地可守。宗廟可保。又焉有君臣出走。城下為盟之辱。吁。是豈獨為清國慨而已乎哉。

佛國實地演習軌典序

曾我祐準

孫子曰。治衆如治寡。分數是也。信哉此言也。夫教兵之法。自小及大。自寡及衆。無古今一也。今此書精於小寡而略於大衆。可謂得教兵之要者。苟此而熟焉。驅之赴戰。陷陣。所謂三官不謬。五教不亂。如身之使臂。臂之使指者。亦何憂其難能乎。於衆於寡。用無不適也。頃者陸軍少佐酒井忠恕譯此篇告成。余一閱嘉其有功於教兵也。乃作之序。

富士山

福羽美靜

作さるるをききとていふものなり



以今世の法をもとむるの志あり

熊本城廢墮表

兵制一變、火器長ヲ專ニセシヨリ、昔時ノ金城湯  
 地、今已ニ無用ノ贅物ニ屬セリ、加之今日各地ノ  
 城郭アルハ、應仁以來強族割據、織田氏安土ノ築  
 キアルニ始リ、諸豪相倣ヒ、務テ壘壁ヲ高スルニ  
 由ル、即戰國ノ餘物ナリ、今也王化洪流、三治一致  
 ノ際、亂世ノ遺址、猶方隅ニ基峙スルハ、四海一家  
 ノ、宏謨ニ障礙アルニ近シ、熊本城ハ、加藤清正ノ  
 築ク所、宏壯西陸ノ雄ト稱ス、臣が家祖先以來倚

テ以テ藩屏タリ、豈甘棠ノ念無ラン哉、然リト云  
 トモ、維新ノ秋ニ膺リ、建國ノ形跡ヲ存シ、却テ管  
 内固陋ノ民俗ヲ養ヒ、以テ邊土ノ旧習ヲ一先ス  
 可ラス、願クハ、天下ノ大体ニ依リ、熊本城ヲ廢墮  
 シ、以テ臣民一心ノ微ヲ致シ、且以テ無用ノ省キ、  
 實備ヲ盡サン、

或曰、旧幕ノ細川氏ニ於ケル、兵馬ノ大勲在  
 ニ非ラスレテ、封スルニ大藩ヲ、以テスル所  
 以ノ者ハ、鄰陸ノ累代先封ヲ襲キ、龍蹠虎踞  
 シテ、永ク臣服スルニ、非ラサルヲ憂フ、故ニ



細川氏ヲシテ、鬼將官ノ金湯ニ據リ、抗抵セ  
シメテ、鄰藩ノ不虞ニ備ヘリ、此レ細川氏旧  
幕創業ノ日ニ、功ノ薄キヲ守成以降ニ償ハ  
レタルニテ、其任尤重ク、其恩最モ深シ、今日  
維新ノ際、其嫌無ラシヤ、故ニ其城ヲ毀ツト、  
予曰不然、同藩ハ英才良之助君ノ如キ、戊辰  
ノ年、復古緒ニ著クノ際ヨリ、庶謀ヲ輔翼シ  
テ、顯職ニ在リ、宇内ノ大勢ヲ達觀シ、封縣ノ  
不可ナルヲ述ヘ、開明ノ邊陲ニ、一日モ早ク  
光被センコトヲ論セラレタリト聞ケリ、豈區

々嫌ヲ避クルカ為ナラシヤ、

羽後路上望鳥海山

泉洲榎本武揚

碧血痕存舊戰袍。壯國一蹶氣猶豪。松陰涼動羽洲  
路。白雪際天鳥海高。

過一尼利那島拿波崙翁帝墓

長林烟雨鎖孤栖。末路英雄意轉迷。今日弔來人不  
見。霸王樹畔鳥空啼。

送別

增田增太郎



人間無處不風波。男子交情豈有他。一別何期再逢日。淋漓奈此淚痕何。

入薩州

尋花幾處誤花期。滿眼山川風雨時。幸有櫻洲一枝在。欲開持重故遲々。

題習志野練兵圖卷

一六嚴谷修

右習志野練兵圖卷。畫師某所筆。將校踰令。兵卒進退。與夫整列撒隊之狀。斫營突陣之勢。細圖曲寫。無復遺憾。披展之際。神旺氣勇。使人有投筆從戎之慨。可謂妙手矣。古人云。畫與六籍同。功果信因。連呼三

大白而題。會有電報曰。官軍破薩賊於南關。時明治十年二月某日。

四十二條正俗論

府下開化ノ速ナルヤ、新聞局ノ日ニ増加スルヲ以テ、微スミレ、抑新聞ノ世ニ益アル極テ多シトイヘ、凡、時政ノ得失ヲ論シ、風俗ノ厚薄ヲ議スルヨリ切ナルハナシ、歐洲開化ノ基ツク所益シ亦コ、ニアルカ、世或ハ徒ニ奇事異談ヲ載セテ、更ニ國家ノ事ニ關セザルノミナラズ、動モスレハ諛媚過獎人ヲシテ、蠟ヲ嚼マシムルモノアリ、僕



敢テ聖代ノ為ニ取ラザル所ナリ、伏冀クハ貴局ノ深意ヲ此ニ注キ、内外ノ情ヲ通シ、上下ノ好惡ヲ暢達シ玉ハン下ヲ、今コ、ニ愚論ヲ呈ス、淺陋ノ至ニ堪ヘストイヘ氏、區々獻芹ノ微衷ノミ、若レ貴局ノ採擇ヲ蒙ムラハ、僕ノ幸ノミナラス實ニ天下ノ為ニ望ム所ナリ云々、右書旨敢テ弊局ノ當ル所ニ非ズト雖氏、其勸獎督責ノ厚意、實ニ銘肝ニ堪ス、且ツ其所掲一々時弊ニ中リ、宛モ痒處ヲ搔カ如レ、因テ記載レ以テ江湖愛國者ノ考ニ備フ、○文明開化トハ舊來

ノ陋習ヲサリ才徳ヲ脩メ職業ヲ勵レ全國一致シテ共ニ安穩ノ地ヲ占ムルニ愚俗無識ノ民ハ放蕩ノ異名ノ如ク心得タルハ實ニ歎スベキ事ナリ因テ今日撃スル所ニ就テ之ヲ論ス餘ハ推テ知ルヘシ精粗醇駁ナキ能ハズトイヘ氏人々ヨク意ヲ此ニ注カバ更ニ風化ニ一層ノ光ヲ添ベレ ○客ノ迷惑ナルコヲモ知ラスレテ酒ヲ頻リニ下戸ニ強ルヲ遇客ノ礼ト心得ルコ ○暴食暴飲ヲ好ム事 ○熱湯ニ浴スル事 ○人ト約シテ刻限ヲ延引スル事 ○問話ヲナシテ



光陰ヲ惜マザル事 ○身躰衣服ヲ不潔ニスル

事 ○人家近ニ牛豚ヲ畜フ事 ○市街ニ塵埃チリ

ヲ投レテ往来ノ不潔ナル事 ○物毎ニ我慢ノ

瘦臂ヲ張ルヲ快氣ト唱フル事快氣又關東男児ノ氣骨トモ云

○賤民徒跣ニテ歩行スル事 ○往来ノ晒店

ニテ疵傷アル衣類ヲ以テ客ヲ欺キ二重ニ貧ホ

ル事 ○眼病黴毒ヲ治スルヲ専門ノ業トスル

醫生或ハ更ニ病勢ヲ助ケ月日ヲ延バレ高價ノ

藥ト唱へ過分ニ藥料ヲ貪ホル事 ○賣ト者妄

リニ吉凶禍福ヲ説キ人ヲ誑カス事 ○襖所ト

唱へ人民群集シテ狂音ヲ發シ神明ヲ譏ス事

○宗忠流ノ俗神道ヲ信スル事 ○不動觀音或

ハ日蓮宗等ヲ信仰シテ歌舞狂舉群ヲナレテ往

來スル事 ○神符ヲ雪隠又戸口等ニ張り神ヲ

汚スヲ知ザル事 ○邸内へ小社ヲ建テ人ヲ

群集セシメ私利ヲ圖ル事 ○稻荷社ヲ狐ト思

ヒ僥倖ヲ祈ル事 ○男女共ニ病身又ハ一家不

祥ナト、唱へ年齢ヲ加減シ或ハ男子ニ女子ノ

名ヲ付女ヲ呼テ男トナシ或庚申等ノ祭ヲ信シ

金扁ノ字ヲ名ニ付ル等ノ事 ○婦人織縫ヲ勤



ヲス游情淫蕩動モスレハ劇場ノ役者ニ戀着レ  
 テ種々ノ醜態ヲ顯ハス事 ○地獄地發ノ盛ナ  
 ル事 ○婦人裳ヲ掲ケ脛ヲ露ハレ丈夫ノ風ア  
 ル事 ○女學校ノ少女袴ヲ着羽織ヲ着男装ヲ  
 學フ西洋女學ノ盛ナルハ世ノ知ル所ナレ  
 凡未タ曾テ一人ノ男装ニ擬スルモノヲ見スソ  
 ハ婦人ノ婦人タル道ヲコン學ベ容ヲ學フニア  
 ラザレハナリ ○小兒ニ多ク甘味ヲ食ハレメ  
 疳疾ヲ醸スヲ知ラザル事 ○父母ノ幼子ヲ  
 育スル神皇ノ敬畏スベキヲ教ヘズレテ妄ニ妖

物ヲ以テ恐嚇シ蒙智塞才ノ戲ヲ教フル事 ○  
 市家ノ婦女ニ淫曲ヲ教ヘオノヅカラ游情ニ誘  
 ク事 ○幼子ノ腦髓ヲ叩キ其子成長ノ後智識  
 ヲ昏マストヲ知ラサル事 ○邏卒ハ護防安民  
 ノ本ナルニ世人其勞ヲ知ラスレテ其職務ヲ輕  
 視スル事 ○長劍結髮ノ士市中ヲ横行シ我コ  
 ソ和魂ヲ失ハジトスルノ氣臭アル事 ○皇學  
 者神聖ノ真道ニ昏ク妄リニ悠遠不切ノ迂談ヲ  
 唱ヘ時勢人情ニ通セザル事 ○漢學者己ノ才  
 量ヲ揆ラス傲然豪傑ヲ以テ自ラ居リ動モスレ



ハ國家ヲ私議レ鳳<sup>キ</sup>ノ歎ヲ發スル事 ○洋學者國體ニ通セズ大義名分ヲ知ラズ放蕩奢靡ヲ以テ開化トシ私利ヲ營ムヲ以テ自由ノ權トスル事 ○官吏或ハ至誠愛國ノ意ナク動モスレバ僥倖ヲ以テ利祿ヲ得ル事 ○官吏或ハ妄リニ威氣ヲ張リソノ士庶ニ遇スル更ニ寛裕温篤ノ情ナキ事 ○僧徒今日ニアツテ猶謂レチキ海外ノ胡鬼<sup>キ</sup>ヲ信シ或ハ蓄髮肉食等ノ新令ヲ私議レ其實浮<sup>フ</sup>手<sup>テ</sup>浮<sup>フ</sup>食<sup>シ</sup>大ニ民俗ニ害トナル事附奸曲愚陋ノ舉コレアル事

近來自主自由ノ論盛ニ行ハレ自ラ愚民等放蕩ノ字義ナリト誤認スルモノ多シ此論誠ニ舊弊家ノ藥石ナリ且諸件中後日違式註違ノ條例ニ挿入ニナルモノ多シ觀者一時ノ輕作トナスベカラズ

茨城縣太田氏建白

維新以來緩急機ニ隨ヒ處置宜ヲ得百官自ラ奮發シテ皇上ノ德化ヲ光被スルノ日ニ際シ草莽ノ微臣敢テ政體ヲ議スルハ万死ノ罪不可遁ナレ氏古語ニ王者不<sup>レ</sup>却<sup>レ</sup>衆庶故ニ能明<sup>ニ</sup>其德ト云ル



ニ本ヅキ、竊カニ一事ヲ議ス、方今万国並立ノ盛  
會ニ當テ、廟堂ノ會計歳々超過シ、已ニ數千万金  
ノ不足ニ至ル、レカミナラス加之土木ノ冗費各國ノ交際、日ヲ  
逐テ恢張ニシ、有司ノ徒如何トモスベカラズ、此  
上ハ官員數ヲ減省シ、或ハ士族ノ祿ヲ褫キテナ  
リレ、償ハザルレトヲ得ズ、トノ事ヲ熟思スルニ、謂  
レナキニ非ス、然レレ郡縣ノ制度、未ダ定マラザ  
ルニ、迫切ニ其所置ヲ行フトキハ、數万ノ士族、飢  
餓菜色ニ及ヒ、哀訴歎願、憫然ノ極ニ至ルベシ、請  
フレ姑レラク之ヲ舍レキ、專ラ償フトヲ論セシ、譬ハ今

一家ノ小民、舊來ノ負債百金アリ、之ヲ償ハンニ  
ハ、飲食ヲ節シ、奴僕ヲ減シ、質素ヲ嚴ニスレ、子母  
ノ金、日ニ月ニ増加シ、生涯全ク償フレ難カルベ  
シ、故ニ百金ノ負債アレハ、他人ヨリ更ニ倍金ヲ  
募借シ、舊債ヲ償ヒ殘金ニテ、新債ヲ償フ程ノ職  
業ヲ營ムベシ、斯ノ如ク行フキハ、數年ナラズシ  
テ全ク辨フトヲ得ベシ、今廟堂ノ會計數千万金  
ノ負債アレバ、益外國ヘ倚頼シ、特ニ數億万金ヲ  
借得ベシ、然レテ凡百ノ器械有用ノ物ヲ造リ、其  
生スル所ノ益ヲ以テ、年何程ト定限ヲナシ、償ハ



新債ノ分ニ至ル迄、數十年ヲ不出シテ全濟ス  
 ベシ、併此法ヲ行フハ、尋常容易ニスベカラズ、初  
 ニ有期ノ目的ヲ確定シ、必ズ一事ノ齟齬ソウコアルベ  
 カラズ、然ル後斷然トシテ、其事ヲ施スベシ、西洋  
 各國ノ形勢ヲ洞察スルニ、強盛ノ國程負債不貲アガナハ  
 ナルヨシ、尤ノ事ト謂ベシ、國ノ強盛ハ人民ニ由  
 リ、人民ノ強盛ハ心ニ由リ、心ノ強盛ハ窮理ニ由  
 ルトナレバ、今日究理ノ有用ニ夥キ負債アルモ、  
 必ス苦慮スルヲ忽レ人智日ニ増シ器械日ニ巧  
 ニ趨リ、士族ヲシテ産業ニ就シメ而シテ後、祿制

ヲ廢ストモ何ノ憂ヲラシ、却テ鼓腹ノ良民タラ  
 ン、此時ニ當リ、上ハ人オヲ鼓舞シ、下ハ一人ノ遊  
 民ナク、物産ノ蕃殖ヲ勉メ、商法ノ便利ヲ謀リ、協  
 心同力、万國ヲシテ我供資ヲ仰クニ至ラシメバ、  
 内ハ國家ノ富強ヲ扶助シ、外ハ各國ノ有無ヲ交  
 通セバ、皇國ノ大本基礎正ニ立テ、實ニ富國ノ策  
 ト謂ベシ、帝ニ外國ノ功用ヲ仰キ、僅ノ負債ヲ償  
 フ術ナク、往日ノ舊習ニ依テ現今ノ當務ヲ處セ  
 ハ、詰リ内地ヲ割リテ、外國ノ負債ヲ償フニ至ル  
 ベシ、豈耻ザランヤ、彼ノ物産ノ蕃殖ヲ勉メ、商法



ノ享利ヲ通スルハ、上ニアルノ有司、其人ヲ得ル  
ニアルノミ云々

歐州開明ノ國タリトモ、負債ノ不賈ナルヲ  
引テ、皇國亦開化有用ノ為ナレハ、負債ノ相  
嵩モ、憂ルニ足ラザルヲ以テ論ス、恐ラクハ、  
本邦今日ノ勢、歐州數百年ノ漸ヲ以テ、成ル  
ノ開化ト同レカラズ、終ニ得ルヲ以テ、償フ  
ニ足ラザルニ至ラン、

偶成

大鳥圭助

紀綱紛擾亂如絲一死報恩在此時十萬甲兵多薄  
澆丹心就義幾男子

皇后宮御苑之養蠶

皇后ノ宮、東京城内吹上ノ御苑ニ於テ、親ヲ蠶ヲ  
養ヒ玉ハントノ御事ニテ、上州岩鼻縣ニ命アリ  
テ、蠶桑ニ事習レタル、女四人ヲ差出スベキ旨ヲ、  
仰下サル、三月上旬ニ、四人ノ女撰マレテ、出京シ、  
御苑ニ伺候シ、蚕桑ノ業ヲ教エ奉レリ、

推古帝、養蠶ヲ創メ玉ヒテ、諸方ヘ、桑柘ヲ植  
ヘシム、之ニ依テ、一時養蚕大ニ行ル、中古衰



微ス、今又古ニ復シ、養蚕ヲ大ニ開カントテ、  
皇后宮ノ尊ヲ以テ、親ヲ蚕桑ヲ試ミ玉フ、國  
ノ本ハ、農桑ニ在リ、内助ノ開化ニ切アル、豈  
ニ鮮少ナランヤ、

肥後の戦場あり 山縣有明

山もさけ海もあせせんたつとむら

あゝ静なる秋の 夜は月

木留山志しむ世のまじりけり

多むくくくんくハ梅をりけり

書懷

春畝伊藤博文

讀書燈底靜無譁。自笑平生苦蔽遮。好拋胸間人欲  
念。獨觀寒月照梅花。

北海巡視中作

鳥山殘雪寂河船。羽後行過入羽前。遇雨小田非偶  
爾。山河於我有因緣。

西洋服ノ標簡

奇ナリ妙ナリ、世間ノ洋服頭ニ、普魯士ノ帽子ヲ  
冠リ、足ニ佛蘭西ノ踏ヲハキ、筒袖ハ英吉利、海軍  
ノ装股引ハ亞米利加、陸軍ノ禮服、婦人ノ襦袢ハ  
膚ニ纏テ、袴々、大襟ノ合羽ハ、脛ヲ過長シ、恰モ日



本人ノ臺ニ、西洋諸國ハギ分ケノ、鍍金セルガ如  
レ、コハ御客様方ノ罪ニアラズ、事物ヲ知ラザル、  
唐物ノ古着屋故、サナクハ袋物師ノ變化タル、洋  
服仕立屋ノ所為ナラン、

一片ノ標簡ト雖モ、人間流弊ノ醜態ヲ戒ム  
ルニ足ル、冠履衣服ハ、制度ノ要務、國体風俗  
ノ関スルトコロ、實ニ日本人ノ臺ニ西洋諸  
國ノ補綴ノ、鍍金トハ、公平ノ沙汰也、曾テ外  
國人ノ此態ヲ、評セシニ、昔時源三位ノ射殺  
シタル、鶴ト云恠鳥ハ、斯ヤ有ケント、嗤笑セ

ラレシトアリ、

### 肉食ノ説

外國人ノ説ニ、日本人ハ性質、総テ智巧ナレモ、根  
氣甚乏シ、是肉食セザルニ因レリ、然レモ、老成ノ  
者、今俄ニ肉食シタレバトテ、急ニ其驗アルニモ  
非ス、小兒ノ内ヨリ、牛乳等ヲ以テ、養ヒ立テナハ  
自然根氣ヲ増シ、身体モ隨テ、強健ナルベシ  
米ハ、天地正氣ノ光ナリ、此ノ光リヲ、仰テ活  
生スル人ハ、一旦ノ英氣甚タ盛ナルヲ、猛虎  
ノ如ク、敢然ト震怒シ、忠憤義烈ノ功業ハ、奏



スレモ、久レキニ堪ユル、根氣ニ乏シク、器械  
 ヲ發明スルノ智慮ハ、至テ後ル、ヨシ、牛ハ  
 獸中ノ魯鈍ナル者ナリ、牛ヲ食フテ、息育ス  
 ル人ハ、牛ノ如ク、久レキニ堪ユル、根氣充實  
 レテ、世界ノ大補ヲ為セモ、天皇陛下ノ為ニ、  
 死ヲ輕スルノ英氣ハ、至テ乏シキヨシ、今ヤ  
 米食人邊ニ牛食ヲ始メ、根氣ヲ増ントシ、牛  
 食人邊ニ米食ヲ始メ、英氣ヲ増ント欲スト  
 雖モ、中年ノ創業ニテ、虎ヲ画テ成ザレハ、犬  
 ニ類シ牛ヲ画テ成サレハ、驢ニ類スル者カ、

ア、

石炭油ノ説

越後ニテ、クソウヅノ油トテ、古來地中ヨリ、湧出  
 ル油アリサレド、其元質ノマ、ニテ、其地ノ土民  
 共ハ、之ヲ用ヒ来レド、焰氣甚レク、惡臭アリテ、上  
 用ノ品ニ、供レ難ケレバ、是マデ世間ヘモ、博マラ  
 ザリシガ、此頃米國ニテ、同種ノ油ヲ、精製シ、惡臭  
 ヲ去リ、上品トナスノ方法、相開ケ、追々夥シク、諸  
 國ヘ輸出セルヨシ、當節我邦ニテ、船載ノ石炭油  
 トテ、人ノ珍重スルモノハ、則チ其油ナリ、然ル處、



我邦ニテモ、右精製ノ工夫ヲ吟味シ、越後及ビ横濱ノ豪富等、會社ヲ結ビ、四萬餘金ヲ、釀出シ、米國へ訛へテ、其器械ヲ取寄せ、當節越後ニテ、既ニ其造構ニ、取掛リシヨシ、右器械第一ハ、油ヲ精スル器ナリ、第二ハ地底ヲ洞鑿テ、油ヲ上逆セシムル此錐ハ佛國ノ發明ナルヨレ、其用效徑五寸ノ孔ヲ、地中ニ穿テ、直入ニ、百間ノ深キニ及フベシ第三ハ鉛室ナリ、之ハ精製ニ用ル、莫大ノ硫酸ヲ、製出スル鉛ニテ、作りタル室構ナリ、此鉛室ノ仕掛ハ、硫酸ヲ製出スルヲ、頗ル夥シケレハ、油製ニ用ヒシ、餘瀝モ、多分ニシテ、其價モ隨テ下落ニ

至ルベシ、尤スレハ、是マテ人ノ硫酸ヲ以テ、物品ヲ制スルモノ、其價ノ不廉ナルヲ苦シ、自然成スヘキヲモ、做レ得サリシ状ナリシガ、向後ハ其便利ヲ、得ンヲ容易ナルベシ、所謂石鹼炭酸曹達魚油精製魚油ヨリ採ル、蠟製等ニ、其益ヲ得ルハ、勿論、或ハ精練家ノ藥品ヲ、製スルニ用ヒ、或ハ緋屋飾屋ノ「ロ」ハヲ用ヒ來リシモノ、硫酸ヲ用テ、下廉ノ切ヲ得ル等、其效最モ多カルヘシ、且外國ニハ、金銀ヲ溶解スルニ、火ヲ假ラズレテ、硫酸ヲ用ユルヨシトレバ、追々右等ノ法モ、相踵テ開クル



「ヲ得ヘレ、サレバ是等ノ事ヲ、思立モノヨリ、眞ニ經國ニ、切用アルノ有志ナリト云フベシ、願クハ四方ノ君子、日新ノ發明アリテ、是擧ニ類スルノ美業、アラントヲ望ム

皇國未曾有ノ開産ニレテ、富國ノ大基礎ナリ、惜哉開明ノ未ダ浸々サ、ルヨリレテ、躊躇危疑スルモノ多ク、業ハ日々ニ増盛ニレテ、資金給ゼズ、過月ヨリ殆ント、蹉跌セントス、依テ石坂父子憤慨米國へ渡航シ、洽子ク實地ノ鑿坑器械切用ノ理ヲ、研究シ、誓テ此

業ヲ、皇國ニ隆盛ニセントスト云ヘリ、或云フ、石坂氏ハ、素ト武人ナリ、故ニ粗豪輕忽ノ弊アリテ、會計ニ密ナラズト、予ハ然ラズ、勇往奮心堪忍カアル、同氏ノ如キモノニ非マシハ、此ノ大業ハ、擧ラザルナリ、

牛乳ノ説

世間乳汁ニ、乏シキ婦人ハ、乳母イラヌヲ以テ、牛乳ヲ小兒ニ與ユルトキハ、人乳同様ニ、飲得テ、乳母ヲ抱ヘ、多分ノ給料ヲ出シ、又ハ其人ノ病疾、或ハ性質ノ賢愚ヲ、撰フノ勞費ヲ、省クノミナラス、



成長ノ後モ、自然無病ニテ、強壯ナリ、西洋ニテハ、  
生子<sup>コラハミ</sup>三月ヲ過レハ、譬へ實親ノ乳アルモ、之ヲ休  
メテ、牛乳ヲ與ヘリ、世人試ニ、其効<sup>キコ</sup>、驗<sup>ケン</sup>ヲ知ルヘレ、  
此等ノ事ヲ、思構スルハ、洋人ノ長所ナリ、日  
本開化ニ裨益アル、少シトセス、

教法ノ捷經

從來ノ漢學ハ、其教方甚々迂遠ニレテ、生徒皆成  
立ニ苦メリ、因テ今般大學本校開興ニ付テハ、最<sup>サト</sup>  
初<sup>ハジメ</sup>ニ教フベキ書ハ、皆和譯<sup>ワヤク</sup>シテ、授ケントノ御趣  
意ニテ、原書已ニ和譯最中ナリト云、

近頃

明治七年

ハ、婦女子ニテモ、大日本史ヲ初メ、

和漢ノ書籍ヲ、手易ク讀ミ、勞セスレテ智識  
ヲ弘ム、文明開化、轉々、盛ナリト云ヘレ、

廢刀ノ瀆觴

福岡高知ノ二藩ヨリ官員廢刀ノ儀、伺ヒ出レニ、  
禮服用ノ外ハ、勝手タルベキ旨、御付紙アリテ  
レバ、少史、權少史、主記、官掌、一同ヨリモ、同様伺ヒ  
シニ、二藩ノ如ク、御聞届ケ、之アリシト云、

腰ニ刀ヲ帶ヒルヨリハ、腹ニ刀ヲ藏マル、尤  
妙ナリ、腰刀ハ、用ヒ易クシテ、害ヲ生ス、腹刀



ハ、用ヒ難フレテ、功ヲ成ス、

鑊醬ノ説

或人ノ説ニ、鑊醬ヲ以テ、齒ヲ染ルハ、所謂舊來ノ陋習ナリ、是ヲ以テ縉紳家ニハ、御維新ノ始メ、速ニ之ヲ廢セラレタリ、婦人ハ齒ヲ染ルノミナラス、眉毛ヲ剃落シ、生來ノ美ヲ損シ、求テ不具ノ姿トナルヲ、何等ノ殺風景ヅヤ、サレモ因習ノ久レキ、今ハ却テ美ヲ増スト思ヘリ、蝦夷ノ婦人ノ面頰ニ、花紋ヲ黥スルト、均シク、甚シキ惑ヒナリ、カ、ル中ニモ、心アル男子ハ、齒ヲ染メズ、眉ヲ剃ラ

ザル婦人ヲ、貴フ者少カラズ、婦人モ、亦齒ヲ染メ、眉ヲ剃ルヲ、惜ミ歎ク者ナキニシモ、非ザレモ、一般ノ風俗ニ、悖ルヲ憚リテ其志ヲ行フヲ得ズ、最モ悲ムベシ、吾輩竊ニ以テ、此ノ如キノ陋習、政令ヲ以テ、之ヲ禁ゼズンハ、意ニ一洗ノ期ナカラシ、亦世上ノ公論アルベシ、

豈唯改陋習也、聞好色男子、頗愛婦人之睡起、亦與評者之意、恰相叶、余更云、紅粉亦蛇足、

主上ノ學課

方今上下才力知識ヲ、研磨スルノ運ニ方リ、恐多



クモ、主上日々ノ御課業、日本書記、續日本書記、集  
解、論語、元明史略、英國誌、國法汎論、人身究理書、御  
講究アラセラル、由、億兆ノ子弟、宜レク聖旨ヲ、  
奉體レ、日夜勉勵、各ソノ才識ヲ、開達スベシ、豈ニ  
優游安逸ニ、過クベケンヤ、

西洋各國、今日ノ盛大ヲ致スヤ、事皆奮氣勉  
勵ニ成ル、本邦ノ人民、主上日々ノ御課業、御  
勉勵ノ聖旨ヲ、奉體レ、寸陰ヲ輕ンゼス、刻苦  
勉強、不止時ハ、國步愈進シテ、終ニ各國ト盛  
大ヲ競フニ、至ラシク疑ナシ、

米國新聞

近頃米國ニテ、尤ノ新聞アリレヨシ、夫レ物ニ反  
對ト云ルコトアリ、之ヲ日本支那ニタトヘシ、支那  
ハ、西海第一ノ饒地ヲ占ム、天下第一ノ人口ヲ持  
チ、數千年ノ昔ハ、自ラ文明國ト、自負セリ、且輓迄  
ニ至テ、各國ト、交際ヲ始ムル、今ヲ去ル、多年トリ、  
然ルニ、日本ハ、一孤島ヲ境トシ、其開港スルヤ、近  
キニアリ、兩國ノ沿革、其差如此ニシテ、今我國ニ、  
支那人ノアルヤ、其數ヲ知ラズト雖モ、皆鑛山ノ  
役夫、或ハ奴隸トナリ、甘ンメ、人ノ使役ヲ受ケ、其



目的ニ至テハ、一囊底ヲ満タシ、身ヲ安逸ニ終ヘ  
 ントヲ欲ス、日本人ハ、然ラズ、試ニ看ヨ、太平海ヲ  
 渡リ、月ヲ追テ、大西洋ニ航シ、其求ムル所ノ者ハ、  
 僅々一囊底金ノ如キモノニ、非ズレテ、滿胸ノ智  
 アリ、オアリ、千金難購ノ物ヲ欲シ、國民ヲ励マシ、  
 物ヲ開キ、務ヲ成ント、其自國ノ他國ニ、及ハサル  
 ヲ知テ、汲々反求スルノ志、愛スベキニ非ズヤ、日  
 本支那ハ、同一ノ黄種ナリト雖、人心人情ノ異  
 ナルヲ、自種中英ノ「<sup>イキラス</sup>スパイン」ニ於ルガ如シ、日本  
 モ、自今ノ奮勵ヲ以テ、開化ヲ講スレハ、數十年ノ

後ハ、文明國ノ列ニ、加ハルヲ必セソト、

猥ニ自負スベカラズ、本邦人ニレテ、囊底金  
 ノ爲ニ、外國人ニ、使役セララル、者、又多レ、支  
 那人ト雖、各國ニ遊學シテ、研究<sup>ビシ</sup>勉<sup>ミン</sup>、以テ國  
 ヲ興サントヲ期スル者多シ、弱敵モ亦侮ル  
 ベカラズ、

尚武ノ勅諭

方今恐多クモ、主上日々政廳へ臨御、萬機ノ御政  
 務、聞<sup>キコ</sup>食<sup>メ</sup>サセラレ、一日太政大臣ヲ召サセラレ、左  
 ノ勅語アラレタル由



朕惟フニ、風俗ナレ者、移換以テ、時ノ宜シキニ隨  
ヒ、國體ナル者、不拔以テ、其勢ヲ制ス、今衣冠ノ制、  
中古唐制ニ模倣セシヨリ、流テ軟弱ノ風ヲナス、  
朕太慨之、夫レ神州武ヲ以テ治ムルヤ、固ヨリ久  
レ、天子親ラ之ガ元帥ト為リ、衆庶以テ其威ヲ仰  
ク、神武創業、神功征韓ノ如キ、決テ今日ノ風姿ニ  
アラズ、豈ニ一日モ、軟弱以テ、天下ニ示ス可ケン  
ヤ、朕今斷然其服制ヲ更メ、其風俗ヲ一新シ、祖宗  
以來尚武ノ國體ヲ立ント欲ス、汝其レ朕カ意ヲ  
體セヨ、

神武創業、神功征韓云々、有難キ勅語ヲ、恐察  
シ、臣子タル者、務テ華美遊惰ノ舊習ヲ、艾除  
シ、質素英豪ノ風姿ニ、變換シ、實ノ復古、真ノ  
開化ニ、注意シ、義ヲ守リ、道ニ殉ヒ、原野ニ屍  
ヲ肆スノ忠思、無クンバ有ルヘカラス

朝紳武弁歸商農ノ訴

或賤民官ニ訴ヘ云フ、近頃朝紳武弁ノ人々、追々  
歸農歸商トテ、吾曹ノ伍中ニ、入ラセラル、由、夫  
ニ引換ヘ、賤農ノ子ハ、兄弟トモニ、祖遺ノ産業ヲ  
忘レ、兄ハ朝紳ヲ學ビ、弟ハ武弁ヲ倣ヒ、僭擬ヲノ



ミ極メ、破産ノ基ヲナセリ、願クハ官ノ思諭ヲ、垂  
 レ玉ハ、幸ナラント、官吏問テ、然ラハ烏帽エゴシ装束レウツク  
 ニテ、和歌ニ耽リ、或ハ胴服小袴ニテ、擊劍ナトニ、  
 志スヤト、アリケレバ、否、若レ然ラハ、強テ痛心ス  
 ルヲナレ、但朝紳ヲ學ブト云ハ、物ヲ典シテ、一向  
 ニ恥ルコトナク、武弁ヲ傲フト云ハ、貨ヲ貸リテ、  
 還スコトヲ知ラス、是故ノヲナリト云レ由、

朝紳武弁云々ノ訴へ、現ニアリシトトハ思  
 ハレズ、サレト節義廉耻ノ地ヲ拂ヒシテ、痛  
 歎セレモノナラム、是全ク維新以降、上下俱

ニ、仁義ヲ輕ンジ、禮讓ヲ忘レ、所謂當時流行  
 ノ、自主自由ノ心得違ヨリ、諺ニ言フ、我僂者  
 ノ夥レクナリテ、目前ノ小利ニ走リ、闔國ノ  
 大利ヲ、顧ミザル、警戒ナルベシ、

穢多非人廢止

穢多非人等ノ称、廢セラレ、自今身分職業共、平民  
 同様タルベキ旨、御布令アリタリ、

穢多非人ノ称、中古肉食嚴禁ノ令下リシヨ  
 リ、之ヲ屠リ、之ヲ喰フ者ヲ、卑下シテ、度外ニ  
 置キシト見ユ、是即チ三韓肅慎荏那ヨリ、



歸化ノ人民、彼ノ風習ニテ、猶禁マザレバ、賤  
視レタルモノカ、近世西洋各國ヲ始メ、肉食  
ハ身體滋養ノ第一等品ト定メ、養生究理極  
リレヨリ、上至尊ヲ始メ、食サセラル、上ハ、  
其称廢セラル、ハ勿論ノト也

### 横濱ジャツパンメール新聞

此論ノ記者ハ、日本ノ士人等、遊手シテ、他人ノ辛  
苦經營セルモノヲ、消耗スルノ影キヲ譏誚シ、  
此種類ノ永ク、存在スル間ハ、大ニ政府ノ庶務ヲ、  
委靡セシムルヲ論セリ、此種類ハ、帝ニ國ノ歳

入ヲ徒食シテ、真ノ國軍ヲ編制スルヲ妨グ、國  
ヲシテ、貧困ナラシムル而已ナラズ、更ニ開化ノ  
道ヲ梗塞セリ、若シ人アリテ、經濟學科ノ書ヲ、研  
究スルモノアラハ、必ズ日本ノ貧困ナルハ、全ク  
此種類ノ、存在スルニ因ルヲ知ラン、夫レ財本  
ノ復生復生トハ財本ヲ費シ之ニ由ハ、甚々速カ  
テ復々新々ニ生スル物ヲ云ナルモノナリ、然レ此之ヲ消費スルト、復生スル  
トノ間ニ、平均ヲ保ツニ非レバ、英國ノ如キ、富強  
ヲナス能ハズ、方今「英國」ニ在ル、貨財ノ中年以前  
ニ、在リシモノ、現今存スルモノハ、幾クカ有、其



中ノ大半ハ去ル、一ケ年ノ中ニ、人工ヲ以テ、生セ  
シモノナリ、財本ハ、唯之ヲ貯蓄スルニ因テ、存在  
スルニ非ス、常ニ之ヲ復生スルニ因テ、存在スル  
ナリ、若シ國民災害ニ因テ、損失ヲ受ルテアリ  
國民離散死亡レテ、減少セシニ、アラザレバ、恢復  
スルノ力、其割合甚速カナルモノナリ、然ルニ殆  
ンド、二百万人ノ遊手ノ徒ヲ、衣食セレムル為メ  
ニ、浪費スル所、一ケ年一人ニ付、少クモ十ポント  
ト算シ、總計一ケ年ニ、二千萬ポントノ國費タリ、  
若シ此等ノ人、自己ノ勤勞ヲ以テ、生活ヲ立テ、一

ケ年ノ暮レ方ノ半ヲ剩サバ、國ニ財本富殖シテ、  
曠業ノモノ無ク、且ツ其復生スル所ノモノ、悉ク  
皆國ノ財貨トナリテ、其富計ルベカラズ、方今テノ  
改革ハ、此種類ヲ減少センテ、欲スルニ在リ、國  
ヲ富スノ道ハ、此改革ニ如クモノナシ、我輩ノ所  
見ニテハ、方今日本ノ帝國ヲシテ、堅固ナラシム  
ルノ方策ハ、國軍ノ編制スルト、一定ノ法律書ヲ、  
製スルト、租税ノ收法、及ヒ貨幣ノ通用ヲ定ムル  
トニ在リ、今此記者ノ論スル所、其意ト符合セリ、  
今日日本多事ノ時、此論邦國ニ關涉スルテ、少ナカ



ラズ、日本政府ニ於テ、真ニ邦國ヲ、整齊セント、欲スルノ時ニ當リテハ、此論更ニ一格ノ價ヲ、増スベシト云々、

至當至理ノ評論ナリ、雖然事ニ緩急アリ、物ニ情勢アリ、各其宜ヲ得ズレテ、唯其理ト論トニ依テ、情勢緩急ニ、着意セスンハ、却テ大害ヲ、招クニ至ラン、

黴毒院告諭

今般小菅縣管内、千住小塚原ニ於テ、黴毒院ヲ設ケタリ、其告諭書ノ略ニ云、從前逆旅ノ饌女ト唱

ル者、其名ハ期年奉仕ニ出テ、其實ハ人ヲ取鬻スル者ニテ、政ノ容サツル所、可廢ノ一也、男女ノ交接ハ、人倫ノ大節ニレテ、之ヲ猥リニスルハ、風俗ノ正カラザル所、可廢ノ二也、賣婦交接ノ間、一人ノ穢氣、衆人ニ傳染レ、康健ヲ傷ヒ、性命ヲ損ス、害ノ甚レキ者、可廢ノ三也、然レモ、因習ノ久レキ、斷然之ヲ廢セシモ、亦妨アリ、是ヲ以テ、更ニ黴毒院ノ除ノ方法ヲ設ク、先ツ害ノ甚キ者ヲ、防ニトス云々、  
又賣女ニ、告諭ノ略ニ云、誘ニ虱虫ト、負債ハ、隠ス

卷之一  
三



ニ隨テ、殖ルト、然レモ此二ノ者ハ、猶終身之ヲ秘  
 レ得ベシ、獨リ微毒ノ害タル、愈秘シテ、愈顯レ、眉  
 ヲ損レ鼻ヲ墜シ、盲トナリ、聾トナリテ、四肢不遂、  
 骨節疼痛、終ニ死亡ニ至ル、幾許ゾヤ、其初メ速ニ  
 之ヲ治セバ、奚ゾ害此ニ至ラン、只其初メ医ニ示  
 スヲ耻テ、之ヲ秘ス、毒漸ク熾ニレテ、遂ニ秘スベ  
 カラズ、妻子兄弟親屬他人、皆之ヲ知ルニ至テハ、  
 毒遂ニ解セズ、身遂ニ斃ル、嗚呼何ゾ、初メ一人ノ  
 醫ニ示スノミ耻有テ、他日衆人ニ示スノ耻ナキ  
 ヤ、加之カクシテ一身毒ニ感レ、之ヲ妻妾ニ傳ヘ、之ヲ子孫

ニ傳フ、何ゾ妻子ニ憐ミナキヤ夫レ微毒ノ蔓延  
 スル、其本遊里ヨリ甚キハナシ、汝等賣色ノ身ト  
 イヘドモ、亦終身遊里ニ沈没スル者ニ非ズ、宜ク  
 身ヲ愛シ、生ヲ全フレ、以テ預メ、前途ノ計ヲ、ナス  
 ベシ、夫能思ヘ、已ニ一身ヲ汚界ニ下レ、人倫ノ大  
 節ヲ毀ル、猶忍ブヘカラザル者也、況ヤ一身ノ毒  
 ヲレテ、百千ノ人ニ分與シ、百千ノ人ヲレテ、死生  
 危難ノ域ニ、陷ラレム、其意ニ於テ、快キカ、若此ニ  
 意アラバ、速ニ廳意ヲ奉承シ、一旦ノ耻ヲ忍テ、終  
 身ノ患ヲ免ルベシ、只一身ノ患ヲ免ル、ノミナ



ラス、百千ノ人ヲレテ、同ク患ヲ免レシム、亦不善  
ヤ云々、

開化ノ餘澤、遊里ニ及フ、且ツ其懇諭、大倫ニ  
基キ、以テ廉耻ヲ起サシム、為ニ健康ヲ全ス  
ル者、枚擧スヘカラザルニ至ラシム、僻陋遠  
邑ニ至ルマデ、如斯有タキト也、

洋行生ヨリ來翰

海外留學生ヨリ贈レル書中ニ、「佛國」ニテハ、内亂  
鎮靜ノ後、彌共和政治ノ政體ヲ取立、彼ノ「チエ  
ナル者」フ、以テ大統領トシ、當今ニテハ、全國集議

院モ、休息ト相成、平穩ノ姿ニ候、一旦ハ色々ト事  
六ヶ數、同氏ニ憤激シテ、辭職セントセシテ、數回  
併シ今「佛國」ニ於テ、此人ノ外ニハ、別ニ事ヲ執テ、  
人ノ承伏スル者無之、今度ハ従前ノ如ク、只做ノ  
大統領ニ非ズシテ、真ノ統領トナレリ、實ニ此人  
ハ年七十ヲ越ヘ、數度執權宰相等ノ大職ニ昇リ、  
自ラ大事ヲ施行シ、幾回モ難苦ヲ經、又當時有名  
ノ歴史家ニシテ、能古今ニ達セシ人ノ由ナレハ、  
衆民ノ服スルモ、理リナリ、併シ後年ノ處ハ、容易  
ニ論シ難シ、何則今佛國ニ於テ、五派ノ黨アリ、則



古宗家是ハ那翁第一世ノ佛權ヲ執リアレ前ニ古來ヨリ佛國ヲ治來リレ子孫アルヲ  
 擁立スル「ヲリヤニイスト家是ハ那翁第三ノ前  
 手孫ヲ立ントス「那翁家是ハ今ノ那翁ヲ後興中  
 庸共和家「是ハ共和中ニテ穩當ナル組ニテ激烈  
 共和家「是ハ大抵過激ノ社士ニシテ今佛國ニテ  
 共和家「五派齊レク國差ヲ酬洗セントスルニ於  
 テハ一ナリト云凡是黨中最其志甚シキ由然如  
 レテ彼ノ「カントベタ」ナル者此派ノ盟首ナリ如  
 此國論數多ニ分レ居ル處、今ノ共和政治ハ、此頃  
 絶ニ一定セレ事ニテ、終極ノ所、全國ノ衆議ニ懸  
 ク、彌佛國後來ノ政體ハ、是ト決定スルノ時ニ至  
 テハ、假令幸ニシテ、流血ノ難ナキモ、少シク紛擾

ノ憂ナキヲ、不能ラント、被察候、

留學生ノ姓名詳ナラスト雖凡、愛國ノ忠實、  
 不言ノ中ニ在リ、想像ニ堪ヘタリ、苟モ忠義  
 ニ志アル者、彼ノ得失ヲ察シ、我利害ヲ量ル  
 ベシ、古來各國ノ戰鬥宗家黨派ノ争ヨリ、變  
 亂ヲ醸ス「儘多シ、顧ミズンハ、有ルベカラ  
 ズ

同氣相求ノ説

方今府下人車ノ熾ナル、市街モ塞ル計リナルニ、  
 或頑固ノ駕籠屋、獨リ古風ノ棄リ行ヲ歎キ居シ



二、同レ頑論ノ漢學先生、此頃洋學ノ熾ニ行レテ、  
 已カ家學ノ衰ルヲ歎キ、同氣相求トテ、或日互ニ  
 語リ合ヒ、歎息シケルガ、一ノ開化書生、之ヲ論シ  
 テ云ク、傳ニ云ハズヤ、人車ニ敵ナレ、横行疑フ勿  
 レト、子等ノ憂ル、亦晚カラズヤ、

都會ノ地ニシテ、猶開化ノ恩被ニ漏ル、此  
 ノ如キモノアリ、況ヤ邊陲ノ地ニ於テヲヤ、  
 坑ニ盈タザレバ逝カス、

漢字不便ノ説

司法權大録天野御民學問議ノ略ニ云、日本ノ詞

バノ國タル云ヲ待タズ、五洲万國、皆詞ヲ以テ、宗  
 トセザルハナシ、文字ノ如キハ、只僅ニ假テ、之ヲ  
 傳ルノミ獨リ、支那專ラ文學ヲ尊ビ、其字數ノ多  
 キ、幾千万其活用ノ博キ、若干訓、其國人モ猶悉ク  
 知ル能ハズ、何ゾ學ノ迂遠ナルヤ、歐洲諸國ノ如  
 キハ然ラス、原字纔カニ廿六、以テ種々ノ語ヲ通  
 シ、二三字合シテ、一音トスル、至便ト謂ッベシ、然  
 レ、我邦五十韻ノ嚴正ニシテ、文字語音、相契ニ  
 有餘不足ノ偏ナキ者ニ比スレハ、支那ハ固ヨリ  
 多キニ過ギ、歐洲ハ猶少キニ誤リ、獨リ中正ノ至



便ヲ得ル、我邦文字ニ如ク者アラス、漢學盛ナリ  
シヨリ以來、人國字ノ至便ヲ忌レ、徒ニ他邦至難  
ノ文ニ拘泥シ、終身刻苦唯字句ヲ是レ争フ、悲マ  
ザルヘケレヤ、方今「歐洲各國、英ニハ自ラ英語ア  
リ、佛ニハ自ラ佛學アリ、幼ヨリシテ、學ニ入ル、皆  
其詞ヲ以テ、其學ヲナス、記シ易ク達シ易シ、大概  
三年ニシテ、一科ノ學ヲ究メ、十有七八ニシテ、一  
人ノカヲ食サルハナシ、獨リ日本已カ至便ノ文  
字ヲ閣テ、漢土至難ノ文字ヲ學ビ、カヲ無用ノ地  
ニ、費ス多クシテ、業ヲ實際ノ上ニ達スル、甚希ナ

リ、是レ人ノガメザルニハ非ズ、學ノ方、立サルニ  
由レバナリ、方今百度一變、文化日ニ開ク、學制モ  
亦更始セズレバアラズ、其語ハ現今普通ノ語ヲ  
以テシ、其字ハ通用五十ノ假名ヲ以テシ、而シテ  
万国ノ經史諸書譯出、殘ス所ナクシバ、女兒童蒙  
ト雖モ、亦讀ミ易ク、知リ易カラシム、亦甚タ難カ  
ラザラン、其各國ノ原書原語ヲ、學ブハマタ、各其  
好ム所ニ、從テ可ナリト云、

漢土ハ自古、鄰好ノ邦ニシテ、風土人情、畧相  
似タリ、管燕ノ語ニ、和魂漢才ト、今漢字ノ至



難トルヲ以テ、之ヲ廢セハ、却テ生靈ノ活機  
ヲ妨ケ、却而開化ノ退歩ニ至ラン、只空詩浮  
文ノ流弊ヲ去リ、カヲ實際上ニ盡シ、學ハシ  
ムハ如何、

盲啞教育ノ上書

山尾工學頭建白書ニ云今般工學寮ヲ、開カセラ  
レ、臣庸三其頭ニ任ゼラレ、誠ニ以テ天恩隆渥不  
知所報、然ニ、臣固ヨリ才疎ニ、識淺ク、大任ニ當リ  
難ク、憂慮悚汗ノ至リニ堪ヘズ候、然ト雖モ、聖旨  
ノ忝キ、敢テ辭レ奉リ候モ、恐入候間、粉骨碎身、淺

陋ヲ不顧、勉勵奉職可仕ト奉存候、因之廣ク西洋  
各國ノ方式ヲ取捨シ、前途盛大ノ目途ヲ立、校中  
ノ規則、事務ノ章程等、追々可奉伺ト、即今取調中  
ニ有之候、然レ臣又熟考仕候ニ、盲啞廢疾ノ窮民、  
天下ノ廣キヲ以テ、之ヲ推算スルニ、其幾許ナル  
ヲ、不可知、是等ノ窮民自ラ存スル能ハズ、他人ノ  
救恤ヲ仰テ、僅ニ口ヲ糊スルト雖モ、凶年飢歲往  
々凍餓ノ死ヲ免カル、不能、真ニ愍然ニ堪ヘザ  
ル次第、彼西洋各國ノ如キハ、大ニ不然、盲聾瘖啞  
ト雖モ、救恤ノ方法、治タズ、及ブノミナラズ、又之ヲ



學校ニ入レ、文字算數、工藝技術、各々適宜ノ教導ヲ施シ、勉強從事、其熟練ニ及ンデハ、大家先生ノ名称ヲ、全世界ニ得ル者、往々有之、臣曾テ「英國」ニ在テ、造船所ニ入り、修學中、親ク見ル所、同所ノ圖引、大工鍛冶等ノ内、啞ナル者モ、亦不少、人ト談話、應接、皆指頭ヲ發轉シ、文形ヲ摸作シテ、之ヲ辨ズ、其敏捷可驚、毫モ、苦澁ノ態ヲ見ズ、而シテ其技藝ノ精妙、容易ニ人ノ及ブ、能ハザル所ナリ、是無他、教育ノ善ク及ブ所以ニテ、彼國文教隆盛ノ景況ヲ、推知スベシ、依之コレヲ見レバ、我國ノ盲啞ト雖

氏、教導宜キヲ得ハ、亦何ゾ然ラザル有シ、然ル一之ヲシテ、自ラ存タル能ハズ、飢寒ニ陥ラシム、豈ニ皇國ノ次典ト謂ザルハケシヤ、故ニ今西洋各國ノ式ニ倣ヒ、先ツ盲啞學ノ二校ヲ創建シ、一校毎ニ男女ノ二局ヲ分テ、教師ヲ外國ニ招キ、以テ天下ノ盲啞ヲ教導シ、適宜ノ工藝ヲ授與シ、其成立ニ隨ヒ、盲男盲女、啞男啞女、各適意婚嫁スルヲ許レテ、天然ノ倫理ヲ全フセシメ、又漸ヲ以テ其他各種癘疾ノ窮民ニ及ボサバ、多年ナラズレテ、西洋各國ニ讓ラザルヘキカ、是無用ヲ轉シテ、有



用トナシ、國家經濟ノ道ニ於テ、万一ノ裨補無ク  
 ハアラズ、而彼等亦各其力ニ食ミ世上ノ良民ト  
 共ニ、自主ノ權ヲ得、以テ皇朝至仁ノ澤ニ沾ハレ  
 トス、是臣カ伏テ渴望懇願スル所也、仰キ願クハ、  
 臣ノ鄙衷ヲ御洞察、被為在、前文盲啞ニ校ノ創建、  
 即今御許容ノ程奉希望候、但レ其費用ニ至テハ、  
 官財ヲ不消費、一種良法ヲ立、天下好善ノ人ニ募  
 リ、辨濟スルノ存意ニ有之候、右御許可ノ上ハ、其  
 方略施設ノ顛末、詳悉取調、言上可仕候云々右御  
 許容相成リ、近日建校コレアル由、

無用ヲ轉レテ、有用ト為レ、經濟技藝並行レ  
 テ相悖ラス、且盲啞相婚嫁セシム、盲ハ啞ノ  
 聾ヲ補ヒ、啞ハ盲ノ明ヲ輔ク、之ニ山尾君ノ  
 薰陶ヲ蒙ラレメハ、後年盲啞ノ為ニ、三舎ヲ  
 避ルモノ多カラシ、

ヘラルト新聞

日本ノ火鉢ヲ用ルハ、尤モ健康ヲ害スルヲ、屢々  
 回想レタリ、

歐羅巴製ノ家屋ノ如ク、空氣密閉セル様ニ、築造



レタル、日本家屋ニ概メ、火鉢ヲ用ユレハ、人民幾千人斃死スルヲ以テ、之ヲ用ユルヲ禁止スベシ、

多年來學問上ノ論ハ、捨オキ、現ニ斃死シ、或ハ辛フレテ、死ヲ免カレタル者アルニ因テ、恒ニ之ヲ考察スルニ、熾タル木炭ノ烟ハ、動物生体ニハ、害アル者トス、

兩三日前ニ、辛フレテ、死ヲ免カレタル者アルヲ聞ケリ、則チ一人小室内ニ、烈火ノ火鉢ヲ置テ、讀書レテ居タリシニ、一友人之ヲ看テ、彼ノ知覺ナ

キヲ知タリ、今暫ク之ヲ心附カザル時ハ、其人必ス死セシナラン、

日本人ハ、數年ヲ待ズレテ、室内ニ烟突ヲ用ヒ得ルヤウノ家屋ヲ、建設スルヲ、疑ヒナカルベシ、

一室内モ、開明ニ及フヲ論シ、烟突ヲ設ル甚々妙、唯願フ旦夕炊烟ノ蒸舛レテ、忽チ登臺ノ御詠アラシムヲ、

米國ニ於テ伊藤副使ノ名譽

米國「サンフランシスコ」ニ於テ、大使工饗宴ノ節、伊藤副使其返答ニ、大使ノ渡海セシ所以ト、我國



ノ開化セシ景況ヲ、左ノ通り、明了ニ陳述セリト、  
吾輩使節トレテ、當國ニ到着以來、各所ニテ受ケ  
レ、慇懃ノ饗應、殊ニ今夕ノ款待、深ク心中ニ感觸  
ス、因テ諸君ニ謝ス、猶諸君ヨリ當府ノ人々ニ、吾  
輩ノ喜慶ヲ、知ラシメンコトヲ願フ、

定約ヲ取結ビ、親シク交接セシヨリ、第一ニ合衆  
國ト定約セリ、吾國人外國人ト、商法ヲ盛シニ通  
スルニ至レリ、

吾國帝ノ命令ニ因テ、我輩ノ此國ニ使スルハ、切  
要ナル、國民ノ權義ト、利益ヲ、得シカタメナレド、  
猶互ニ事實ヲ知ラバ、互ニ尊敬シ、以後更ニ親接  
スルコトヲ、求ムルタメナリ、

吾國人、外國ノ事情ヲ、見聞シ、且ツ書籍ニ依テ、稍  
々其風習ヲ、知ルコトヲ得シヨリ、既ニ當今ハ、國內  
ノ人民、概シ被情實ヲ、知ルニ至ル、方今政府ト國  
人ノ冀望スル所ハ、海外ノ文明國ヨリ導カレタ  
ル、開化諸術ノ極處ニ、至ルコトヲ求ム、故ニ國內既  
ニ、海陸ノ兵法、術學教學ヲ、採用セリ、是レ外國ニ  
接セシヨリ、自由ニ被國ヨリ吾國ニ、諸術ヲ與ヘ  
シ所以ナリ、



諸術ノ開化ニ赴ク、甚タ速カナレ、就中人心ノ開化ニ、赴ク、最モ速カナリ、故ニ吾國ノ賢人、深ク注視シ、此開化ノ時世ヲ以テ甚タ善レトス、吾國數千年以來、氣儘ノ政事ヲ施行セリ、故ニ國人已レカ自由ノ權アルヲ知ラス、然レ、諸術ノ開化スルニ隨ヒ、舊來受ザリシ自由ノ免許ヲ、數年以來、始テ理解セリ、故ニ先年ノ内亂ハ不慮ノ事ニ出ルナリ、

吾國ノ諸侯、版籍ヲ返上シ、且ツ從來氣隨ノ政体ヲ、官府ニ渡セリ、數百年前ヨリ、領地ヲ私有品ノ如ク、支配セル舊弊モ、一滴ノ血ヲ流サズ、一子ノ彈ヲ發セズ、僅カニ一年間ニメ、全ク變制セリ、此著明ナル事件ハ、政府ト人民ノ一致スルニ因テ成業セルナリ、  
前条ニ載セタル、改革ノ件々ハ、日本ノ人心、及ビ諸術ノ開化ニ赴キレ、ヲ顯ハセリ、吾國ノ女子教育シ、益々學藝ヲ盛ンニシ、後世才子ヲ得ン、ヲ望ム、故ニ女子ハ、既ニ教諭ヲ、受ルタメ、當國ニ來レリ、

日本ハ、物理ヲ研究シ、諸術ノ根基トナル能ハズ、



然レ凡有用ヲ取リ、無用ヲ棄テ、智カヲ實際ニ施  
サシテ、目的<sup>ト</sup>ス、猶海外ノ文明國ニテ、經驗セル  
記録ヲ、師トシ學バン<sup>ト</sup>ヲ欲ス、

一年前ニ、合衆國ノ會計ノ法度ヲ、精細ニ吟味シ、  
且ツ會計局ノ官吏ノ扶助<sup>ト</sup>ヲ受ケ、學ビシ所ノ諸  
術ヲ、吾政府ニ告ケタリ、此一二術ハ、既ニ施行セ  
リ、

使節并ニ他ノ人々ハ、吾國ノ利益、且ツ學科ノ引  
續キ開化ニ赴クベキ事實ヲ、持テ歸ル<sup>ト</sup>ヲ望ム、  
吾國人民ノ權、并自由ノ免許ヲ、得ル<sup>ト</sup>ヲ求ム、故

商法ヲ盛ン<sup>ニ</sup>シ、物産ヲ廣大ニシテ、此大業ノ基  
礎ヲ、固クスル<sup>ト</sup>ヲ望ム、

太平海ニ、隔絶セル國タト雖<sup>モ</sup>、當今ハ此大海ヲ  
航シテ、通商ヲ盛ンニセン<sup>ト</sup>ヲ企望セリ、故ニ合  
衆國ト、日本ハ、猶一ト際<sup>ト</sup>商法ヲ、勉メン<sup>ト</sup>ヲ望ム、  
合衆國ニテハ、從來ノ發明、及ヒ成績ノ扶助<sup>ト</sup>多キ  
故、吾國ニテ、一年ニ果スベキ事業ハ、合衆國ニテ  
一日ニ卒ルベシ、此切要ノ時ニ至リテハ、一時間  
モ空シク費ヤス<sup>ト</sup>ヲ得ズ、故ニ日本人ハ、只開化  
ノ進歩スル<sup>ト</sup>ノミ冀望セリ、



吾國旗ノ中央ニ、點セル赤丸ハ、最早帝國ヲ封ビ  
ル封シ蠟ノ如ク見ヘザルベシ、今ヨリ後ハ、大陽  
ノ昇ル如ク、世界ノ文明國ヲ經歷スベシト、但シ  
此返答ハ、四辺ノ譽メ声ノタメニ、甚タ妨ケラレ  
タリ、伊藤副使着坐ノ時ハ、衆人手ヲ拍テ譽メア  
グル故、殆ト聳スルニ至レリト云、

我方今ノ情勢ヲ述ル、實相實事、間然スル  
ナシ、宜哉合衆國滿廷ノ人ヲシテ、歎譽セシ  
ムルヲ、未文經歷ノ二字、照映ト改メテ如何  
博覽會ノ景況并布告書

申三月十日ヨリ、二十日ノ間、文部省博物館ニ於  
テ、博覽會ヲ催サル、毎朝九字ヨリ、午後四字ニ至  
ル迄、男女ヲ論セズ、一日大畧千人ヲ限リトシ、同  
館及ヒ諸方書林ヨリ、出セル切手ヲ以テ、拜觀ス  
ルヲ許サル、又同省ヨリノ布告書アリ、云博覽  
會ノ旨趣ハ、天造人工ノ別ナク、宇内ノ産物ヲ蒐  
集シテ、其名称ヲ正シ、其用方ヲ辨シ、人ノ知見ヲ  
廣ムルニ在リ、就中古器舊物ニ至テハ、時勢ノ推  
遷、制度ノ沿革ヲ追徴スベキ、要物ナルニ因リ、嚮  
者御布告ノ意ニ原キ、周ク之ヲ羅列シテ、世人ノ



故觀ニ供セント欲ス、然其各地ヨリ、徵集スル  
 ノ期ニ至テハ、之ヲ異日ニ待ザルヲ得ズシテ、現  
 今存在ノ旧器ハ、社寺ニ遺傳スル什物ノ外、其用  
 ニ免ツヘキ物少ナク、加フルニ皇國從來博覽會  
 ノ舉アラザルニヨリ、珍品奇物ノ官庫ニ貯フル  
 所、亦若干許ニ過キズ、因テ古代ノ器物、天造ノ奇  
 品、漢洋船載、新造創製等ヲ論ゼス、之ヲ藏スル者  
 ハ博物館ニ出シテ、此會ノ罅ヲ補ヒ、以テ世俗ノ  
 陋見ヲ啓キ、且ツ古今ノ同異ヲ知ラシムルノ資  
 助トナスヲ請フト云、

皇國博覽會ノ權輿、内外ノ珍奇星羅雲集ス  
 中ニ丈餘ノ金鯨魚アリ、衆目ヲシテ駭賞セ  
 レム、予ハ唯一覽シテ、長城ノ蛇足、銅陀荆棘  
 ノ感ヲ催ス、亦世態變遷ノ感覽ト云テ、可ナ  
 ラシカ、

人身滋養物

ウエールスノ究理書中ニ、人身滋養ノ食物ハ、肉  
 類ヲ第一トス、一牛二鶏三豚四綿羊五小牛肉、魚  
 類ヲ第二トス、一鱈二鱒三鮭四鰻

近来鶏牛店ノ鰻店ヲ、壓倒スルヲ視ル、此文



ノ金剛力ニ倚ル歟、

廣瀬氏、教養ノ費ヲ、華族ニ募ル議

臣嘗テ之ヲ思フニ、皇威ヲ恢張スルハ、郡縣ノ制  
 ヲ建ルニ在リ、國勢ヲ宏強ニスルハ、開拓ノ業ヲ  
 興スニ在リト、今ヤ郡縣ノ制、已ニ定リ、開拓ノ業  
 モ、亦舉ル、天下ノ事、又可言者ナシ、獨リ人才教育  
 ノ方法、猶未タ全備セザルニ似タリ、夫人才ハ、國  
 家盛衰ノ所關<sup>カ</sup>、其重キ不待言、政府固ヨリ良圖偉  
 策在ラセラルベシ、然レ臣未タ窺ヒ知ル能ハ  
 ス、敢テ鄙見ヲ陳シ、尊嚴ヲ瀆<sup>ア</sup>冒ス、夫レ育才ノ法

政府獨リ之ニ任ス可ラス、獨リ下民ニ寄ス可ラ  
 ス、下民ニ寄レハ、其規模一定ナラス、政府獨リ之  
 ニ任スレバ、其施為決洽ナラス、故ニ之ヲ下民ニ  
 ヲセテ、而メ政府之ヲ統理スルニ如クハナシ、之  
 ヲ上下ヲ一ニシ、衆力ヲ合スト謂フ、方今教養日  
 ニ加リ、月ニ盛ニシ、華族モ亦社ヲ結<sup>ナ</sup>フモノアリ、  
 蓋シ聖化ノ所致、人心趨嚮ノ機、已ニ見ユ、獨リ惜  
 ム、其規則殊異ニシテ、其教導精粗アルヲ、是獨リ  
 下ニ寄スルノ故ノミ、伏願クハ、朝廷宜シク、速ニ  
 其趨嚮ノ機ニ投シ、衆力ヲ合一シ、以テ其規模ヲ



一定スベレ、然後人材生育復遺憾ナカルベレ、然  
 リト雖凡、凡ソ事ヲ立ル、資財ヲ以テ本トス、其本  
 ヲ計ラズレテ、其施為ヲ論ズ、亦唯空論能成ス  
 有ニヤ、故ニ今其資本ヲ論シ、其方法ヲ左ニ陳ス、  
 先般元諸侯華族へ、渡洋勉學スベキ勅諭アリ、是  
 レ宇内ノ形勢ヲ歴觀シ、衆庶ニ率先シ、以テ皇國  
 ノ開化ヲ助ク、其業亦偉ナラズヤ、雖然人ノ才ヲ  
 成ス、唯志ヲ立ルノ確ク、學ヲ好ムノ篤ク、刻苦勉  
 勵不已モノニ在リ、而メ有志ノ徒、大率貪困窮厄  
 往々資財ノ為ニ一蹶スル者、古今抄トセズ、若之

ヲレテ、其資財ヲ扶助シ、小ハ以テ圖書器械ノ欲  
 ヲ充レメ、大ハ以テ航海歷游ノ望ヲ遂レメハ、其  
 偉器達材駁々輩出、目ヲ拭テ、待ベキナリ、若シ徒  
 ニ財アルヲ以テ、漫ニ海外ニ遊ブ、其費ス所ノ財、  
 幾萬ニシテ、其材ヲ成ス、果シテ幾許ソヤ、其利害  
 得失、智者ヲ待而後ニ、知ラサルナリ、故ニ臣區々  
 ノ心、此無用ノ費ヲ移レ、彼ノ有為ノ人才ヲ、生育  
 セントス、雖然凡ソ人其心ニ服シ、其事ヲ悦ガニ  
 非ンバ、誰カ其財ヲ出メ、其舉ヲ助シ、願クハ朝廷  
 一ノ制諭ヲ出メ、明ニ其利害得失ヲ辨シ、二三有



志ノ華族ヲ入、之ヲ率先セシメバ、庶幾クハ以テ  
衆ヲ鼓舞スベシ、抑臣亦華族ノ洋行ヲ目シテ、之  
ヲ無益ト謂ニ非ス、二百八十五名ノ華族ヲシテ、  
盡ク洋行セシメン<sub>ト</sub>固ヨリ希望スル所ナリ、然  
レ<sub>レ</sub>其事容易ナラス、其家ノ貧富、其祿ノ多寡ア  
リト雖<sub>レ</sub>、大抵平均シテ、一人一年ノ所費、千五百  
金、留學三年往還ノ路<sub>程</sub>ヲ概シ、一家五千金、而<sub>レ</sub>  
其留學ノ遲速、其年齒ニ隨<sub>テ</sub>、不同ト雖<sub>レ</sub>、十年ノ  
間ニ、盡ク洋行セシムル<sub>ハ</sub>、其費用概メ百四十  
萬金ニ下ラス、而其ヲメ<sub>レ</sub>、盡クオ<sub>ラ</sub>成シ、業ヲ遂ケ

レムル<sub>レ</sub>、僅々二百八十許人ニ過キス、況ヤ二百  
八十許名ノ華族、尽クヲハラシヤ、今此華族ノ洋  
行ニ、年ノ費用ヲ出サレ<sub>ル</sub>、以テ育才ノ費ニ充<sub>テ</sub>シ  
トス、其方法華族ノ食祿、現石九拾余萬石、一萬石  
ニ、金一萬金、三年ニ分配シテ、之ヲ出サレムル、其  
金合メ九拾萬金、此九拾萬金ヲ、商社ニ借貸セハ、  
其息每歲九萬金ヲ得ル、此九萬金ノ資本ヲ以テ、  
教養一年ノ費用ニ充<sub>ツ</sub>、大抵都下六大區每區ニ、  
教養ヲ開キ、一費一年ノ所費、凡ソ一萬金以テ、各  
國ノ良教師ヲ雇ヒ、加ルニ精勉ノ助教ヲ置キ、華



族及ヒ平民ノ子弟ニ至ルマニ、皆就テ學ブヲ得  
セシメ、所謂貧困窮厄ノ人才ヲ扶持シテ、其志業  
ヲ遂ケシメハ、貧富貴賤ニ論ナク、人才輩出、其幾  
千人ナルヲ知ラス、而メ毎歲之ヲ公撰メ、文部省  
ニ貢シ、文部省之ヲ檢査シテ、年々三十名ツ、費  
用千金ヲ給メ以テ、海外遊學基年ナラシムル片  
ハ、十餘年ノ後、其成立者、方ニ三百人ナラントス、  
是所費ノ財ハ、華族三分ノ二ニメ、而メ其資本、依  
然トシテ、不朽ニ存シ、年々九万金ノ子利ヲ生シ、  
以テ永世ヲ益ス、噫如是セハ、則華族ノ國家ニ、裨

益アル、却テ自己財ヲ費スモノト、豈ニ日ヲ同シ  
テ、語ル可シヤ、抑華族タル者何ソ、此際ニ當テ、相  
率テ奮勵以テ此偉業ヲ興サ、ル唯華族ノ為ニ  
惜ムノミナラス、朝廷ノ為ニ、深ク之ヲ惜ム、是臣  
ノ忌諱ヲ憚ラス、敢テ鄙衷ヲ吐露スル所以ナリ、  
臣誠恐誠惶昧死謹言

先年華族名分大義ヲ辨明シ、藩籍奉還、急流  
勇退、大ニ開化ヲ輔翼スルモノ、如シ、廢藩  
以降都下ニ、蟪集スルニ當ツテハ、尸位素喰  
ノ諺ヲ招キ、一言一行ノ國事ニ、實効アルヲ



聞カス、今歳漸會館ノ議起ルニ付、高島氏鐵  
 路營膳券金ノ論ヲ投ス、又大坂府令渡邊君  
 討清軍資金ノ策ヲ投ス、然ルニ一辭ノ答辨  
 アルヲ聞カス、猶旧夢ノ醒メサルカ如ク、恰  
 モ駑馬ニ鞭ツニ似タリ、宜哉廣瀬君ノ教養  
 券金ヲ論ジテ、行ワレサルヲ、雖然三氏ノ論  
 スル所、皆金也、嗚呼難哉金、昔日勤王ヲ以テ、  
 鼓動スルハ易ク、今日金納ヲ以テ、鼓舞スル  
 ハ難シ、

洋人府下ノ舊習ヲ話ス

或洋人ノ話ニ、日本ニテハ近頃裸躰ニテ、街上ヲ  
 往来スルヲ禁シ、又無蓋ノ糞桶ヲ、搬運スルヲ制  
 セシメ、トナト、從來穢ヲハシキ風習モ、追々改正ニ  
 趣キシカ、未タ一弊風ノ除カサルアリ、何頃ヨリ  
 始マリシニヤ、茶屋遊女屋船宿待合、其外商賣ノ  
 家ニハ、金精明神ト称ヘ大ナル陰莖ヲ、神棚ニ上  
 ク、燈明ヲ點シ、神木ナトヲ具シテ、之ヲ祭レリ、無  
 禮ト云ヒ、失体ト云ヒ、實ニ無耻ノ風、正視スルニ  
 堪サルナリ、又之ニ及レテ、街道ニテ兩便所衆觀  
 場ナトニハ、必ス天照皇太神ノ木札ヲ掛ク、冠履



倒置、ソノ神ヲ瀆シ、俗ヲ亂ル、亦甚シカラスヤ、是等ノ汚習ハ、萬國中絶テ之ナキコトニテ、マシテ、當府下ハ輦轂ノ下ナレハ、嚴シク禁令アリタキコトナリト云々

徳川氏ノ基ヲ茲ニ肇メ、三百年ノ棗鞬ヲ致ス所以ノ者ハ、先遊廓ヲ造リ、亂餘ノ豪傑、狼啖虎視ノ心ヲ、消磨シテ、安逸柔弱ナラレムルヲ第一トス、唐ノ高祖ノ藩鎮ノ權ヲ解クレムル語ト一般太平ノ久レキ、其積弊鄭衛ニ超過シ、其極醜態ヲ現ワス、此ノ如キニ至

愚亦甚シ、維新以降、淫画ヲ鬻クヲ禁ス、此弊速ニ教化ノ敷及スルヲ仰ク、長ク黙許シテ、外人ノ謗ヲ受ルナカラシムコトヲ要ス、

女子洋装ノ説

近頃府下ニテ、徃々女子ノ斷髮スル者アリ、固ヨリ我古俗ニモ非ス、又西洋文化ノ諸國ニモ、未ダ曾テ見ザルコトニテ、其醜陋風、見ルニ忍ヒス、女子ハ柔順温和ヲ以テ、主トスル者ナレハ、髮ヲ長クシ、飾ヲ用ユルコト、萬國ノ通俗ナルヲ、イカナル主意ニヤ、アタラ黒髮ヲ切捨テ、開化ノ姿トカ、



色氣ヲ離ル、トカ、思ヒテスマシ顔ナルハ、實ニ  
片腹イタキ業ナリ、此説既ニ府下諸新聞ニ掲載  
シテ、言ヲ待ザルコトナレド、又別ニ洋學女生ト見  
エ、大帶ノ上ニ、男子ノ用ユル袴ヲ着シ、足駄ヲハ  
キ、腕マクリナトシテ、洋書ヲ提ケ、往來スルアリ、  
如何ニ女學生トテ、猥ニ男子ノ服ヲ着シテ、活氣  
ガマシキ風俗ヲナスコト、既ニ學問ノ他道ニ馳セ  
テ、女學ノ本意ヲ失ヒタル一端ナリ、是等ハ孰レ  
モ、文明開化ノ弊ニシテ、當人ハ論ナク、父兄タル  
者、教ヘサルノ罪ト謂ツベキナリ、

雲鬢ヲ截切シテ、開化トシ、男袴ヲ穿ツテ、文  
明トス、是レ活氣ヲ起シ、色情ヲ絶ツノ本心  
ヨリ出ルナラジ、府下人情輕恣女ヲ生ムヲ  
重ニスル、長恨歌ノ風、太々盛ナリ、恐ラタハ  
揚氏ノ如キモノ、高官貴族ノ配偶ヲ要スル  
策ヲラン、曾テ予カ近家ニ、菓菓商ノ一女ヲ  
育スルアリ、其女容貌異常、齡漸ニ六ニ垂ン  
トス、繡衣身ニ着ケ、錦帶腰ニ繞ラシ、師家ニ  
往來シテ、絃歌ヲ學ヘリ、其爺ヲ視レハ、纏纏  
身ニ纏ヒ、艸鞋、跣足、菓菓ヲ嚙ケリ、其女今春



年既ニ長シ、天生ノ麗質、一啖百媚、人ヲ聳動  
ス、一朝遽然饒商ノ新迎スル有ツテ、全家ノ  
幸福、俄ニ至リ、爺亦小倉ノ短襖ヲ着シ、二間  
ノ格子戸ニ轉居シ、爐ヲ擁シ、煙ヲ吸フノ外、  
外事ニ關セス、却而曩時ノ業商ノ僕役スル  
ノ身トナレリ、府下ノ女ヲ重シテ、富ヲ得  
ル、此ノ如シ、當時文明ヲ奇トシ、開化ヲ珍ト  
シ、一時斷髮洋装ヲ好ミ、急々進歩徒ノ多キ、  
今日ニ倍々セリ、予又聞米商ノ高利ヲ釣ル  
ハ、勢ヲ察シ、機ヲ視ルノ後レンコヲ、第一ト

スト、此女子ノ洋装ニ擬スルモ、亦恐クハ米  
商利策ヲ學フ者ナラン乎、

洋行生ノ開化ヲ急進スルノ論

全書中ニ、我日本ノ如キ、一小島ヲ以テ、獨リ天照  
御國トシ、井蛙ノ見ヲ株守シ、弱小ノ兵權ヲ以  
テ、各大國ト並ヒ、交際セントスルハ、タトヘハ我  
ハ鈍玉鈍藥ニシテ、彼ハ精玉精藥ナリ、豈ニ争ヒ  
對スルヲ得ンヤ、當今宇宙間暇ヲ幸トシ、鼓舞作  
興開化ニ進マシメ、仁ヲ盾トシ、義ヲ矛トシ、正々  
堂々、抗立スルニアラサレハ、維持ノ策無之儀ト、



愚考仕候、御承知ノ大平洋「サントイチ」國ハ、人口  
僅ニ六万ノ小島ナレト、今ヲ去ル二十年前、女王  
何某位ヲ襲キ、慨然トシテ、悉ク従前ノ官負ヲ退  
ケ、之ニ替ルニ、各國ノ有名家ヲ招キ、各職ニ進メ  
大ニ舊習ヲ除キ、種類多キ言語ヲ、一定スル迄、大  
改革ヲナシ、夫ヨリ次第ニ文明ニ進ミ、既ニ其小  
島ヨリ、全權公使當國ニ出張スルニ至ル、米人舌  
ヲ卷キ、此ヲ談セリ、何卒此美轍ヲ踏ニテ、我皇國  
今日ノ要務ト奉存候云々、

大抵洋行スル人、該地ノ富強繁盛一垂涎シ

テ、皇國ノ時勢風土ヲ察セス、立政憲法彼レ  
カ如ク改革セントス、木ニ縁ツテ、魚ヲ求ル  
ノ類多シ、此論亦開化ノ急進ヲ欲ス、予カ取  
ラサル所ナリ、文中仁義ノ兩字ヲ挿入ス、近  
來仁ノ字死シテ、義ノ字好對偶ヲ失ス、不体  
裁ニ付、仁ノ字ノ名代ヲ、務ルタメカ、下ニ務  
ノ字ヲ添、專ラ流行ス、亦當日今日ノ勢變ヲ  
證スルニ足ル、

失題

雲井龍雄



天門之窅窅於甕不容射鉤一營仲燈增魚恙舊鱗  
騏生歸江湖真一夢自咲豪氣猶未摧每經一難一  
倍來眸視蜻蜒洲首尾向何處欲試我才講學平生  
護此志道窮命垂何足怪只須痛飲醉自寬埋首之  
山到處翠

全

欲回狂瀾濟一世道之窮通未肯計直氣吐來震九  
重滿眼神肢是芥蒂天日不照孤臣心在被浮雲遮  
且蔽欲死則死生則生我肘豈容易使人掣檻車夕  
過東寧川目擊湖山淚沾袂回首遭逢夢耶真壯圖  
只有水東逝嗚呼縱令此山如礪此川如帶區々之  
志安能替

形勢一斑卷之上終

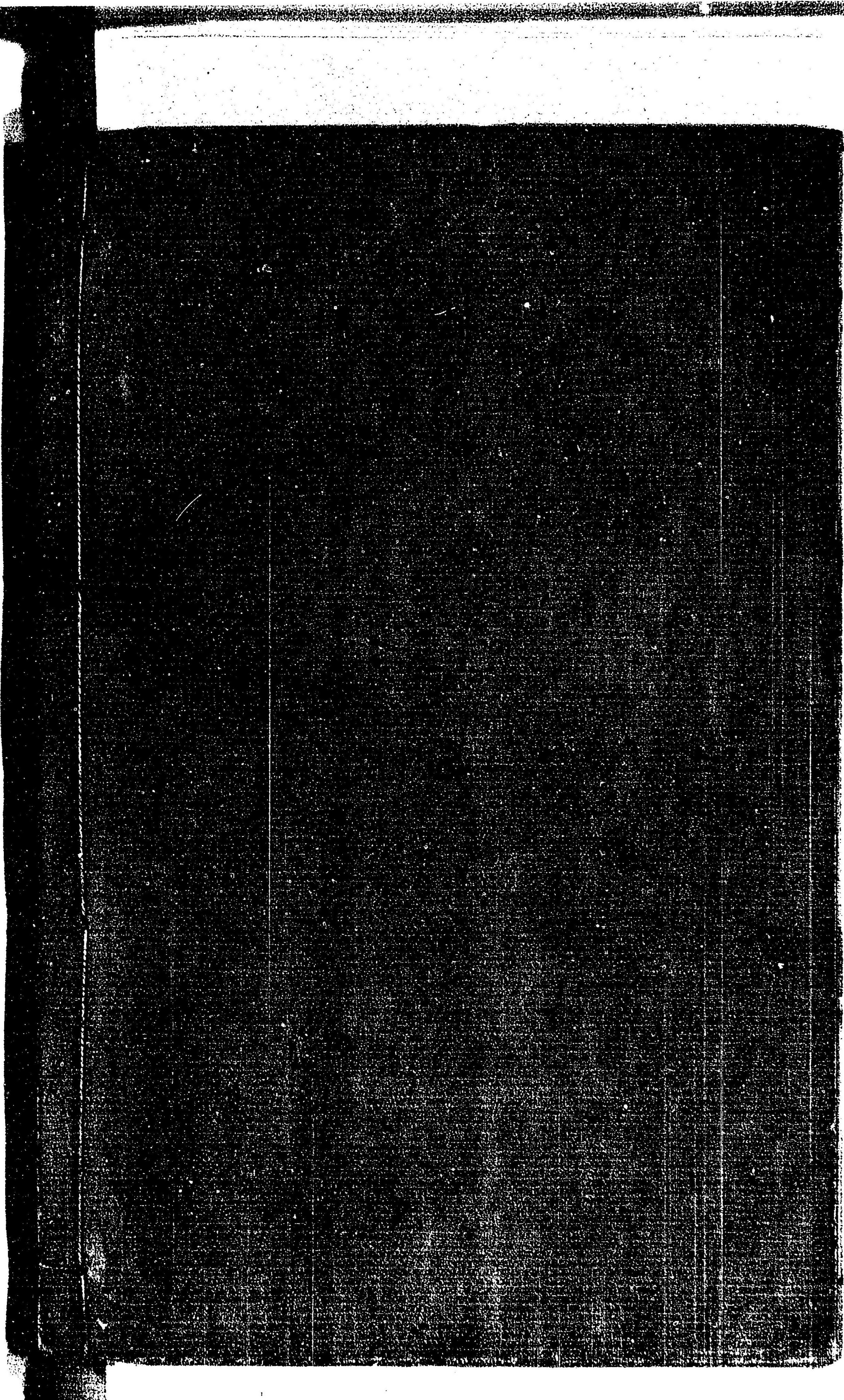


張學一

法

只此大







特42

664



039715-001-2

特42-664

明治形勢一斑

福田 恒久/編

上

M11.9

BDA-0305

